

小・中学校 授業づくりシート		学年	中 I	内容項目	遵法精神, 公德心
指導観	「発達の段階一覧表」を踏まえた				
	内容項目の理解	実態把握		教材の活用	
	自分の判断や意志で生きていこうとすることや身の回りの法やきまりを批判的に捉えるようになる発達の段階を踏まえ、法やきまり等の意義を自覚して行動しようとする判断力を育てたい。	行為の結果と動機のどちらも踏まえて、深い思索ができるようになるとともに自律への意欲が高まる時期である。そのため、法やきまり等に反発する様子が見られるようになってきた。		教材は「二通の手紙」を活用する。行為の結果と動機を踏まえた思索ができることや自分の判断や意志で生きていこうとする発達の段階を踏まえ、規則の例外を認めることの問題点を考えさせることを通して、きまりの意義を改めて捉えさせる。	
ねらい	規則の例外を認めることについて考えることを通して、集団や社会の安定を守るために規則やきまりがあることを理解し、主体的に遵守しようとする道徳的判断力を育てる。				
手立て	身の回りの規則やきまりを批判的に捉えたり、その意義に疑問を持ち始めたりする発達の段階を踏まえて生徒に問題意識を持たせ、法やきまりの意義を自覚し、主体的に遵守しようとする思いを持たせることができるように発問を構成する。				
指導の手立ての具体（想定した児童生徒の反応から目指す姿までの過程）	 (受験生のために、本来止まらない駅で電車を停車させた事例を紹介) 皆さんは、運転手さんたちの行為をどう思いますか。 				
	実態把握から想定した生徒の反応と問題意識				
	困っている人のために やったのだから、よい。 ダメなことだけど、理由 を考えると仕方ない。 優しいとは思いますが、止まら ない予定なら規則を守らない といけないかな・・・。				
	元さんが仕事を辞めたことについてどのように考えますか。				
	辞める必要はない。元さんは よいことをしたはず。 難しいね。やったことは 正しいけど・・・。 きまりだから仕方ないと思 う。				
	今回のことを許すことは、きまりの例外を認めることになる。 きまりの例外を認めることについて、どのように考えますか。				
	認めることも必要。きまりが絶対ではない。 どんな理由でも、一つを認めたら他も・・・。				
	何もないからよかった では済まない。 どちらの立場も、誰かのため にという思いがある。 きまりの意味や誰かのためにという 思いまで考えたことがなかったな。				
	本時で目指す生徒の発言や考え				
	皆さんは、規則やきまりに対してどのような思いを持って生 活していますか。 自分は規則やきまりを守ることを、人に言われて やっているから嫌だと考えていた。 言われているからには守らないといけないな、 程度に思って生活していた。 規則やきまりが何のためにあるのかを考えた ことはあまりなかった。 これからは、自分の周りにある規則やきまりの 意味をしっかりと考えて生活していきたい。				

第1学年道徳科学習指導案

指導月日 令和〇年〇月〇日

授業者 〇〇 〇〇

- 1 主題名 規則やきまりの意義「C-(10) 遵法精神, 公德心」
教材名 「二通の手紙」(文部科学省 私たちの道徳 中学校)

2 指導観

(1) 内容項目の理解

本主題は、中学校学習指導要領(平成29年告示)の次の内容を受けて設定されたものである。

第3章 特別の教科 道徳 第2 内容 [遵法精神, 公德心]

法やきまりの意義を理解し、それらを進んで守るとともに、そのよりよい在り方について考え、自他の権利を大切にし、義務を果たして、規律ある安定した社会の実現に努めること。

小学校までに、法やきまりの意義や権利を大切にし、義務を果たすことの意義について生徒は学習してきた。また、中学生は、自分の判断や意志を大切に生きていこうとする時期であり、他者の言動を時には批判的に捉える様子が見られるようになる。一方で、中学校に入学して間もない時期の生徒は、学校の校則や部活動のルール等に他律的に従い、学校生活に慣れようと努力をする時期でもある。この中学生の発達の時期を踏まえると、身の回りにある法やきまりに他律的に従うことに慣れ始め、法やきまりに対して批判的に捉えたり、反発したりすることが見られるようになると思う。

以上のことから、法やきまりを守ることが規律ある安定した社会を実現することにつながることを理解し、法やきまりの意義を自覚して行動しようとする判断力を育てたい。

(2) 実態把握

中学生になると、行為の結果と行為の動機のどちらも踏まえて、深い思索ができるようになる。また、自我に目覚め、自分の判断や意志で生きていこうとする自律への意欲が高まるようになる。

生徒は、中学校に入学して間もない時期は、中学校生活に慣れるために教師や先輩から教わった校則やルール等を守る姿が見られた。しかし、学校生活に慣れてきたことで、校則等の規則に不満を持ち始めたり、仕方なく校則を守ったりしている様子が見られるようになってきた。今後は、自我に目覚めることで、自分なりの判断や考えを更に大切にするようになり、時にはきまりや規則等に反発したり、自分の権利を強く主張する傾向が強くなったりすることが考えられる。

(3) 教材の活用

本教材は、動物園の規則を理解しながらも、2人の姉弟への人情を大切に結果、規則を破った元さんに厳しい処罰が下される内容である。批判的な能力が備わり、自分の判断や意志で生きていこうとする発達の時期を踏まえると、動物園の規則を破った元さんの思いに共感し、動物園の規則を批判的に捉える生徒が多いと考える。一方、規則があるからこそ安全で秩序のある運営ができることを考慮して、規則を守ることの大切さを考える生徒もいると考える。それぞれの考えを取り上げながら、規則やきまりの例外を認めることについて考えさせることで、集団や社会の安定を守るためにきまりがあることを理解させる。その上で、規則やきまりに対する自分の思いを振り返らせ、他者への思いやり等、様々な思いからきまりを破ることに理解を示しつつも、規則やきまりの意義を自覚して行動を判断しようとする大切さを実感させたい。

以上のことから、行為の結果と行為の動機どちらも踏まえて深い思索ができることと自分の判断や意志で生きていこうとする生徒の実態にふさわしい教材である。

3 本時の指導

(1) ねらい

規則の例外を認めることについて考えることを通して、集団や社会の安定を守るために規則やきまりがあることを理解し、主体的に遵守しようとする道徳的判断力を育てる。

(2) 手立て＜発問構成の工夫＞

身の回りの規則やきまりを批判的に捉えたり、その意義に疑問を持ち始めたりする発達の段階を踏まえて生徒に問題意識を持たせ、法やきまりの意義を自覚し、主体的に遵守しようとする思いを持たせることができるように発問を構成する。

発問	意図
皆さんは、運転手さんたちの行為をどう思いますか。	内容項目に対する生徒の考え方を把握すると同時に、生徒に問題意識を持たせる。
元さんが仕事を辞めたことについて、どのように考えますか。	動物園の規則を尊重することと元さんの思いやりの心の両面を考えさせながら、自分の思いを明確にさせる。
規則の例外を認めることについて、どのように考えますか。	例外を認めるかどうかを話し合うことから、規則の意義を理解させる。
皆さんは、規則やきまりに対してどのような思いを持って生活していますか。	自らの行動や考えを見直し、規則やきまりを守ることを大切にしようとする思いを持たせる。

(3) 指導過程（別ページ）

(4) 評価

＜生徒の評価＞

○規則の例外を認めることについて考える活動を通して、思いやりの心から例外を認めるべきという心情や人の権利、安全等を守るためにきまりが尊重されるべきという考えに触れながら、自分の考えを深めることができたか。（多面的・多角的）

○規則やきまりに対する自分の思いを振り返る活動を通して、自らの行動や考えを見直し、規則やきまりを守ることを大切にしようとする思いを持つことができたか。（自分との関わり）

＜指導方法の工夫に対する教師の評価＞

○発問の構成は、法やきまりを批判的に捉えたり、その意義に疑問を持ち始めたりする生徒の発達の段階を踏まえて問題意識を持たせ、目指す生徒の姿に迫るものとなっていたか。

(5) 準備物

教師：教科書、ワークシート

(6) 板書計画

規則やきまりの意義	・人を守る ・安全、安心 ・一つ一つのきまりにも・・・	規則の例外を認めること		
元さんが仕事を辞めたこと ・辞める必要はない。 ・罰を与えたことがおかしい。 ・子供たちも喜んでいたのに。 ・見付かったからよかったけど。 ・みんな大変な思いをした。 ・規則だから守るべき。 ・安全のためにあるのだから守るべき。		認めてよい	迷う	認めない
		・特別な理由があれば・・・ ・何でもダメではよくない。	・例外を求める ・人の気持ちは分かるけど。	・規則には理由がある。 ・安全や安心のため。

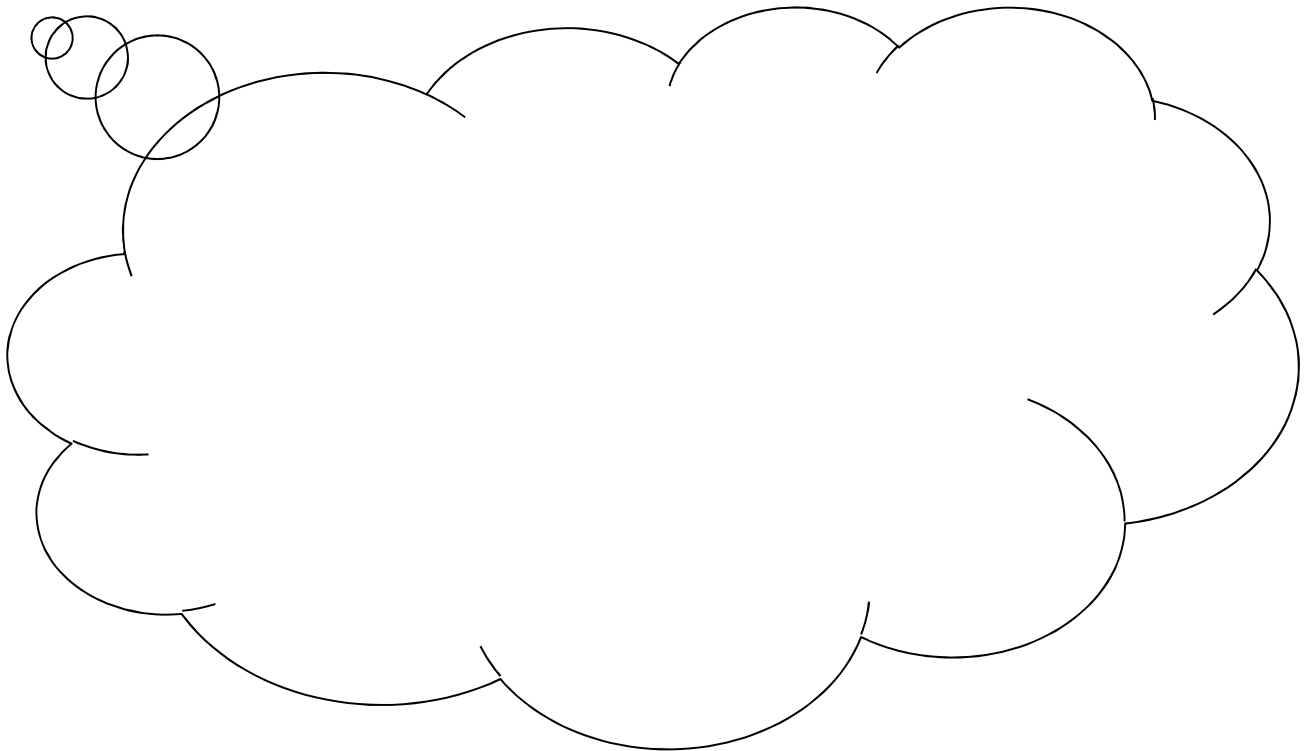
指導過程

段階	学習活動 ○基本発問 ◎中心発問	予想される生徒の反応	指導上の留意点 ○評価 【 】評価方法
導入 5分	1 主題に関わる問題意識を持つ。 ○皆さんは、運転手さんたちの行為をどう思いますか。 規則やきまりの意義について考えよう。	・受験生のためにやったことならいいのではないかな。 ・他の人の迷惑にもなるだろうし、迷うな。 ・停まらないとなっていたのならダメじゃないかな。	＜手立ての具体＞ ・<u>発達の段階を踏まえて生徒に問題意識を持たせ、法やきまりの意義を自覚し、主体的に遵守しようとする思いを持たせることができるように発問を構成する。</u> ・鉄道運行会社にとって、電車の時刻（ダイヤ）を守ることは重要な規則であることを伝えてから問い掛ける。
展開 35分	2 「規則やきまりの意義」について考える。 ○元さんが仕事を辞めたことについて、どのように考えますか。 ◎規則の例外を認めることについて、どのように考えますか。	＜例外を認める立場＞ ・辞める必要はないと思った。よいことをしたのだから。 ・動物園が罰を与えたことはおかしいと思う。 ・子供たちもお母さんも喜んでいたので、かわいそう。 ＜迷う立場＞ ・子供たちが見付かったからよかったけど・・・。 ・みんなが大変なことをしたと思うと、これでよかったのだろうか。 ＜規則を尊重する立場＞ ・危なかったからダメだ。 ・そもそも規則で決まっていたのだから守らないと。 ・動物園に来る人たちの安全のためにあるのだから・・・。 ・何かあったときに、子供たちを守れないからこそ・・・。 ◎規則の例外を認めることについて、どのように考えますか。 ・人を助けたい等の思いがあれば、例外を認めてもいいと思う。(思いやり、感謝) ・何でも、規則を守ればよいわけではない。(個性の伸長) ・破ることはよくないかもしれないけど、思いを受け止めて	・範読する前にあらすじを確認し、動物園の規則に関わる部分に注目して読ませる。 ・例外を認める立場に考えが偏った場合は、「なぜ、元さんは自分から辞めたのだろうか」と問い掛け、規則を遵守できなかった自分を振り返る思いに共感させて、規則を尊重する立場を捉えさせる。 ・規則を尊重する立場に考えが偏った場合は、「園の前に立つ姉弟を見た元さんの思い」を問い掛け、規則を破った思いに共感させる。 ・認めてよい、迷う、認めない方がよいという立ち位置を明確にして、その理由も含めて考えるように問い掛ける。 ・ペアで話し合わせ、納得できたところや参考になったところを共有させる。

	あげることも大切。(寛容) ・規則があるのならば，どんな理由でも絶対に守るべき。 (公正，公平，社会正義) ・規則があることは理由があるのだから，守ることは大切ではないか。(遵法精神) ・規則はみんなのためのもの。例外を認めると誰かが大変な思いをする。(遵法精神) ・守らないといけないからではなく，理由があるからこそ守るべき。(遵法精神)	・規則に対する生徒の思いや考えを引き出した上で，「規則は何のためにあるのでしょうか」を問い掛け，規則は多くの人への思いがあって作られていることは共通していることに気付かせる。 ○多面的・多角的【発言】	
	3 人間としての生き方を考える。 ○皆さんは，規則やきまりに対してどのような思いを持って生活していますか。	・自分は規則やきまりを守ることを，人に言われてやっているから嫌だと考えていた。 ・言われているからには守らないといけないな，程度に思って生活していた。 ・規則やきまりが何のためにあるのかを考えたことはあまりなかった。 ・これからは，自分の周りにある規則やきまりの意味をしつかりと考えて生活したい。	・本時の学習を振り返った上で自分のこれまでの生活や生き方を振り返らせる。 ・規則やきまりに対するこれまでの自分の向き合い方を考えるように問い掛ける。 ・これまでの自分の姿をおおむね振り返ることができた場合は，これから規則やきまりにどのように向き合っていくかを書くように促す。 ○自分との関わり 【ワークシート，発言】
終末10分	4 道徳的価値に対する思いや考えをまとめる。 ○学習感想を書く。		・導入で問い掛けた問題をもう一度問い掛け，◎を付けさせる。考えが変わった生徒に対しては理由を聞く。 ・主題について感じたことや考えたことを書かせ，本時の生徒の学びを見取る。

- 1 規則を守り，止まらない方がよい 2 迷うが規則を守った方がよい 3 迷う
4 迷うが例外を認めることがあってもよい 5 例外を認めて，止まってよい

規則やきまりの意義



学習感想 「規則やきまりの意義」について感じたこと，考えたこと